欧州一般データ保護規則(GDPR)における地理的適用範囲ガイド ライン ver.2.1 の分析と議論状況

板倉陽一郎 13 寺田麻佑 23

2019 年 11 月 12 日,欧州一般データ保護規則(GDPR)における地理的適用範囲ガイドライン ver.2.0 (Guidelines 3/2018 on the territorial scope of the GDPR (Article 3) - version adopted after public consultation)が採択された。その後,2020 年 1 月 7 日に形式的修正により ver2.1 となっている。我が国の事業者等にとって最も重要なガイドラインの一つであるが,その分析は十分になされているとは言えない。他方で,GDPR の地理的適用範囲に関する規定をそのままコピーしたような法令が各国で現れてきており,同ガイドラインの議論を分析することには意義が見いだされる。本発表では,同ガイドラインの分析を行う。この際,これを巡る各国法の状況を可能な限り敷衍する。

Analysis and discussion status of GDPR Territorial Guidelines 3/2018 (Article 3) -Version adopted after public consultation

YOICHIRO ITAKURA¹³ MAYU TERADA²³

Guideline 3/2018 on the territorial scope of the GDPR (Article 3)-version adopted after public consultation adopted by the European General Data Protection Regulation (GDPR) on November 12, 2019 Was. After that, it became ver2.1 on January 7, 2020 by formal correction. This is one of the most important guidelines for Japanese operators, but its analysis has not been sufficiently conducted. On the other hand, legislation has emerged in each country that has copied the provisions on the geographical scope of the GDPR as it is, and it is worthwhile to analyze the discussion of the guidelines. In this presentation, we analyze the guidelines. At this time, the situation of the laws of each country surrounding this will be extended.

1. 問題意識

欧州一般データ保護規則 (GDPR) については,2018年5月25日の全面適用を前に,欧州域内のみならず世界各国がその対応に追われた.その最大の理由が,GDPRが広範な域外適用を認めているからである (3条1項及び2項).

3条1項の拠点基準については、解釈があやふやなまま、全面適用直後に、フランスのホテル予約システム受託会社から、大規模なデータ漏えい事件が発生した。この受託会社に対しては、多くの日本のホテルが予約システムを委託していたため、処理者が域外適用される場合に、管理者にも域外適用が起こるかという点において、日本の事業者が判断を迫られることになった。結果として、この点については保守的に、適用されることを前提に対応せざるを得なかった事業者が多かったものと思われるが[1]、管理者と処理者については個別に判断するという地理的適用範囲ガイドライン verl.0 (意見募集版)の解釈によって、相当程度実務的には問題が解消した。

他方,3条2項の拠点基準における管理者と処理者の関係は問題として残されており、その点をどの程度書き込むかは注目されていた.以下では、verl.0からの主たる改訂箇所を示し、解釈変更等について考察を加える.なお、日

本語訳は個人情報保護委員会の仮日本語訳による.

2. 主たる改訂箇所

2.1 序

The EDPB underlines that the application of Article 3 aims at determining whether a particular processing activity, rather than a person (legal or natural), falls within the scope of the GDPR. Consequently, certain processing of personal data by a controller or processor might fall within the scope of the Regulation, while other processing of personal data by that same controller or processor might not, depending on the processing activity. EDPB は、第 3 条の適用は、人(法人又は自然人)ではなく、特定の取扱活動が GDPR の範囲に含まれるかを決定することを目指していることを強調する.その結果として、ある管理者又は処理者の個人データのある取扱いがGDPR の範囲に含まれるが、同じ管理者又は処理者の他の個人データの取扱いが GDPR の範囲に含まれないということも、取扱活動次第でありうる.

These guidelines, initially adopted by the EDPB on 16 November, have been submitted to a public consultation from 23rd November 2018 to 18th January 2019 and have been updated taking into account the contributions and feedback received.

これらのガイドラインは, 初めに 11 月 16 目に EDPB によって採択され, 2018 年 11 月 23 日から 2019 年 1

1

¹ 弁護士・ひかり総合法律事務所

Attorney at Law, Hikari Sogoh Law Offices

² 国際基督教大学教養学部准教授

 $[\]label{lem:associate} Associate \ Professor \ of \ Law, \ College \ of \ Liberal \ Arts, \ International \ Christian \ University$

³ 理化学研究所革新知能統合研究センター(AIP) RIKEN AIP

月 18 日までの間に意見募集が行われ、受領した意見及びフィードバックを考慮してアップデートされた.

特に前半が解釈指針として有益であろう. 管理者又は処理者の個人データの取扱いが域外適用されるかについては, 当該取扱との関係で議論されるのであって,域外適用されるかどうかは人単位ではないということである.

2.2 拠点基準の適用 第3条第1項

2.2.1 「安定的な仕組み」「拠点」の解釈

The threshold for "stable arrangement9" can actually be quite low when the centre of activities of a controller concerns the provision of services online. As a result, in some circumstances, the presence of one single employee or agent of the non-EU entity may be sufficient to constitute a stable arrangement if that employee or agent acts with a sufficient degree of stability. As a result, in some circumstances, the presence of one single employee or agent of a non-EU entity in the Union may be sufficient to constitute a stable arrangement (amounting to an 'establishment' for the purposes of Art 3(1)) if that employee or agent acts with a sufficient degree of stability. Conversely, when an employee is based in the EU but the processing is not being carried out in the context of the activities of the EU-based employee in the Union (i.e. the processing relates to activities of the controller outside the EU), the mere presence of an employee in the EU will not result in that processing falling within the scope of the GDPR. In other words, the mere presence of an employee in the EU is not as such sufficient to trigger the application of the GDPR, since for the processing in question to fall within the scope of the GDPR, it must also be carried out in the context of the activities of the EU-based employee.

管理者の活動の中心がオンラインサービスの提供に関連す るものである場合,「安定的な仕 組み」の閾値 9 は実に極 めて低い. その結果, EU 域外の組織の従業員又は代理人 が十分に安定して活動をしている場合,かかる従業員又は 代理人が 1 名でも安定的な仕組 みを十分に構成しうる. その結果, EU 域外の組織の従業員又は代理人が EU 域内 にお いて十分に安定して活動をしている場合,かかる従業 員又は代理人が 1 名でも安定的な仕組み(第 3 条第 1 項 の適用上「拠点」に相当)を十分に構成しうる. 反対に, EU 域内を本拠地とする従業員が存在するが、EU 域内を本 拠地とする従業員の活動の過程で取扱いがなされていない 場合(すなわち, その取扱いが EU 域外の管理者の活動に 関連する場合), 単に EU 域内に従業員が存在することを もって、その取扱いが GDPR の 適用範囲に該当するとい うことにはならない. つまり, 当該取扱いが GDPR の適 用範囲に該当するためには、EU 域内を本拠地とする従業 員の活動の過程で取り扱われる必要があるため、単に EU 域内に従業員が存在するだけでは GDPR の適用をもたらすには不十分である.

EU 域内に従業員がいたとしても、そこでの個人データの取り扱いが EU 域内を本拠地とする従業員の活動で取り扱いがなされていない部分については、GDPR が適用されない. つまり、日本企業における個人データの取扱いの一部を EU 域内の従業員が担っていたとしても(この場合は一社内での話であるので、管理者と処理者という区分にはならないが)、当該取扱いには GDPR は適用されない.

2.3 標的基準の適用 第3条第2項

2.3.1 取扱単位の強調

The EDPB stresses that a controller or processor may be subject to the GDPR in relation to some of its processing activities but not subject to the GDPR in relation to other processing activities. The determining element to the territorial application of the GDPR as per Article 3(2) lies in the consideration of the processing activities in question. EDPB は、管理者又は処理者が、その取扱活動の一部に関して GDPR の対象となる場合があるが、他の取扱活動に関して GDPR の対象とならない場合があることを強調する。第3条第2項に定めるGDPR の地理的適用の決定要素は、問題となっている取扱活動の検討にある。

「序」においても強調されたように,域外適用は取扱単位で発生するということの再掲である.

2.3.2 EU 域内のデータ主体

The EDPB considers however that, in relation to processing activities related to the offer of services, the provision is aimed at activities that intentionally, rather than inadvertently or incidentally, target individuals in the EU. Consequently, if the processing relates to a service that is only offered to individuals outside the EU but the service is not withdrawn when such individuals enter the EU, the related processing will not be subject to the GDPR. In this case the processing is not related to the intentional targeting of individuals in the EU but relates to the targeting of individuals outside the EU which will continue whether they remain outside the EU or whether they visit the Union.

しかしながら、EDPB は、サービスの提供に関連する取扱活動に関して、この規定は、気 付かずに又は偶発的にではなく、意図的に EU 域内の個人をターゲットとする活動を目的 としていると考えている. したがって、その取扱いがEU 域外の個人にのみ提供されるサービスに関連しているものの、そのサービスが、当該個人が EU 域内に入国する際に停止されない場合には、その関連する取扱いは GDPR

の対象とならない. この場合, その取扱いは, EU 域内の個人への意図的なターゲティングに関連するのではなく, EU 域外に留まっても EU を訪問しても継続する EU 域外の個人へのターゲティングに関連する.

Example 8: An Australian company offers a mobile news and video content service, based on users' preferences and interest. Users can receive daily or weekly updates. The service is offered exclusively to users located in Australia, who must provide an Australian phone number when subscribing. An Australian subscriber of the service travels to Germany on holiday and continues using the service. Although the Australian subscriber will be using the service while in the EU, the service is not 'targeting' individuals in the Union, but targets only individuals in Australia, and so the processing of personal data by the Australian company does not fall within the scope of the GDPR.

事例 8:オーストラリアの会社は、ユーザーの嗜好及び関心に基づき、モバイルニュース 及びビデオコンテンツサービスを提供している。ユーザーは、毎日又は毎週更新を受ける ことができる。このサービスは、オーストラリア在住のユーザーにのみ提供され、ユーザーは購読時にオーストラリアの電話番号を提供しなければならない。このサービスのオー ストラリアの購読者は休日にドイツに旅行し、サービスの利用を継続する。オーストラリ アの購読者は EU域内にいる間にサービスを利用するが、このサービスはEU域内の個人を「ターゲティング」するのではなく、オーストラリアの個人のみをターゲットとするため、オーストラリアの会社による個人データの取扱いは、GDPRの範囲内とはならない。

事例 8 は新規に追加されたものである. 元々,標的基準のうち第 3 条第 2 項(a)については意思的要素が強調されていたが,さらに,「気付かずに又は偶発的にではなく,意図的に EU 域内の個人をターゲットとする活動を目的としている」と確認し,EU 域外の個人をターゲットとしている場合に,偶然に EU 域内でデータが取得されるような場合に適用対象とならないことを明確化した.

2.3.3 雇用契約上の義務の履行

Example 13: A US company, without any establishment in the EU, processes personal data of its employees that were on a temporary business trip to France, Belgium and the Netherlands for human resources purposes, in particular to proceed with the reimbursement of their accommodation expenses and the payment of their daily allowance, which vary depending on the country they are in. In this situation, while the processing activity is specifically connected to persons on the territory of

the Union (i.e. employees who are temporarily in France, Belgium and the Netherlands) it does not relate to an offer of a service to those individuals, but rather is part of the processing necessary for the employer to fulfil its contractual obligation and human resources duties related to the individual's employment. The processing activity does not relate to an offer of service and is therefore not subject to the provision of the GDPR as per Article 3(2)a.

事例 13:EU 域内に拠点のない米国の会社は、フランス、ベルギー及びオランダに一時的 に出張した従業員の個人データを、人事管理目的で、特に宿泊費の払い戻し及び日当(居 住国によって異なる)の支払いを進めるため、取扱う.この場合、その取扱活動は、特に EU 域内にいる者(つまり、一時的にフランス、ベルギー及びオランダにいる従業員)に関連しているが、それらの個人へのサービスの提供とは関係がなく、むしろ 雇用主がその個 人の雇用に関連する契約上の義務及び人事上の義務を果たすために必要な取扱いの一部で ある.この取扱活動は、サービスの提供とは関係がなく、したがって第3条第2項aに定めるGDPRの規定の対象とはならない.

事例 13 は新規に追加されたものである. EU 域内に一時的に出張したことについて,立替経費を支払うことは,雇用主の雇用契約上の義務の履行であって,サービスの提供とはいえないという確認であるが,従業員への雇用契約上の義務の履行なのか,追加でサービスをしているものかという点については曖昧な部分が残っていないことはないと思われる.

2.3.4 偶発的な商品又はサービスの提供

It is however important to recall that Recital 23 confirms that the mere accessibility of the controller's, processor's or an intermediary's website in the Union, the mention on the website of its e--mail or geographical address, or of its telephone number without an international code, does not, of itself, provide sufficient evidence to demonstrate the controller or processor's intention to offer goods or a services to a data subject located in the Union. In this context, the EDPB recalls that when goods or services are inadvertently or incidentally provided to a person on the territory of the Union, the related processing of personal data would not fall within the territorial scope of the GDPR.

ただし、前文第 23 項が、単に管理者、処理者又はその中間介在者の EU 域内の Web サイトにアクセスできること、Web サイト上に電子メールアドレス若しくは住所又は国 番号を付与していない電話番号を記載していることは、それ自体では、EU 域内のデー 夕主体に物品又はサービスを提供する意図を管理者又は処理者が有していることを証

明する証拠としては十分ではないことを確認している点を 想起することが重要である. この文脈において, EDPB は, 商品又はサービスが気付かずに又は偶発的に EU域内の者 に 提供された場合, 関連する個人データの取扱いは GDPR の地理的範囲に含まれないことを 想起する.

「気付かずに又は偶発的にではなく,意図的に EU 域内の個人をターゲットとする活動を目的としている」というメルクマールに従っていることを確認する趣旨である.

2.3.5 EU 域内に拠点のない処理者

Processing activities which are "related" to the targeting activity which triggered the application of Article 3(2) fall within the territorial scope of the GDPR. The EDPB considers that there needs to be a connection between the processing activity and the offering of good or service, but both processing by a controller and a processor are relevant and to be taken into account.

第 3 条第 2 項の適用をもたらしたターゲティング活動に「関連する」取扱活動は、 GDPR の地理的範囲に含まれる. EDPB は、取扱活動と商品又はサービスの提供との間に関連性が必要と考えているが、管理者及び処理者による取扱いの双方が関連し、かつ、考慮される必要があると考えている.

When it comes to a data processor not established in the Union, in order to determine whether its processing may be subject to the GDPR as per Article 3(2), it is necessary to look at whether the processing activities by the processor "are related" to the targeting activities of the controller.

EU 域内に拠点のないデータ処理者については、その取扱いが第3条第2項により GDPR の対象となるかどうかを判断するため、当該処理者による取扱活動がターゲティング活動に「関連する」かどうかを見る必要がある.

The EDPB considers that, where processing activities by a controller relates to the offering of goods or services or to the monitoring of individuals' behaviour in the Union ('targeting'), any processor instructed to carry out that processing activity on behalf of the controller will fall within the scope of the GDPR by virtue of Art 3(2) in respect of that processing.

EDPB は、管理者による取扱活動が商品又はサービスの提供若しくは EU 域内の個人の 行動の監視 (「ターゲティング」)に関連する場合、管理者に代わってその取扱活動を 行うよう指示された処理者は、その取扱いに関し、第 3 条第 2 項により GDPR の範囲 に含まれると考える.

The 'Targeting' character of a processing activity is linked to its purposes and means; a decision to target individuals in the Union can only be made by an entity acting as a controller. Such interpretation does not rule out the possibility that the processor may actively take part in processing activities related to carrying

out the targeting criteria (i.e. the processor offers goods or services or carries out monitoring actions on behalf of, and on instruction from, the controller).

取扱活動における「ターゲティング」の性質は、その目的 及び手段にリンクしている. EU 域内の個人をターゲット とする決定は、管理者として行動する組織のみが行うこと ができる. このような解釈は、処理者が標的基準の実行に 関連する取扱活動に積極的に参加する可能性を排除しない (つまり、処理者は、管理者に代わって又は管理者からの 指示に基づき商品又はサービスの提供し又は監視行動を行 う).

The EDPB therefore considers that the focus should be on the connection between the processing activities carried out by the processor and the targeting activity undertaken by a data controller.

したがって、EDPB は、処理者が行う取扱活動と、データ管理者が行うターゲティング活動との関連性に焦点を当てるべきであると考えている.

Example 19: A Brazilian company sells food ingredients and local recipes online, making this offer of good available to persons in the Union, by advertising these products and offering the delivery in the France, Spain and Portugal. In this context, the company instructs a data processor also established in Brazil to develop special offers to customers in France, Spain and Portugal on the basis of their previous orders and to carry out the related data processing.

事例 19: ブラジルの会社は、食材及び地元のレシピをオンラインで販売し、フランス、スペイン及びポルトガルにおいてこれらの製品を宣伝し、また配達を提供することにより、この商品の提供を EU 域内の者が利用できるようにしている。このような状況において、同社は、ブラジルに拠点のあるデータ処理者に対し、過去の注文に基づき、フランス、スペイン及びポルトガルの顧客への特別の提供を開発し、関連するデータ取扱いを行うよう指示する。

Processing activities by the processor, under the instruction of the data controller, are related to the offer of good to data subject in the Union. Furthermore, by developing these customized offers, the 50 data processor directly monitors data subjects in the EU. Processing by the processor are therefore subject to the GDPR, as per Article 3(2).

データ管理者の指示の下での処理者による取扱活動は,EU 域内のデータ主体への商品の提供に関連している.さらに,これらのカスタマイズされた提供を開発することにより,データ処理者は EU 域内のデータ主体を直接的に監視する.したがって,当該処理者による取扱いは,第3条第2項により GDPR の対象となる.

Example 20: A US company has developed a health and lifestyle app, allowing users to record with the US company their personal indicators (sleep time, weight, blood pressure, heartbeat, etc...). The app then provide users with daily advice on food and sport recommendations. The processing is carried out by the US data controller. The app is made available to, and is used by, individuals in the Union. For the purpose of data storage, the US company uses a processor established in the US (cloud service provider)

事例 20:米国の会社が健康及びライフスタイルアプリを開発し、ユーザーがその米国 の会社に個人的な指標(睡眠時間、体重、血圧、心拍など)を記録できるようにした。このアプリは、ユーザーに食事やスポーツの推奨事項についてのアドバイスを毎 日提供する。この取扱いは米国のデータ管理者によって行われる。このアプリは、EU 域内の個人が利用でき、また EU 域内の個人により使われている。データ保存の目的で、米国の会社は米国に拠点を有する処理者(クラウドサービスプロバイダー)を使用する。To the extent that the US company is monitoring the behaviour of individuals in the EU, in operating the health and lifestyle app it will be 'targeting' individuals in the EU and its processing of the personal data of individuals in the EU will fall within the scope of the GDPR under Art 3(2).

健康及びライフスタイルアプリの運用において米国の会社が EU 域内の個人の行動を監 視している限り, それは EU 域内の個人を「ターゲティング」することとなり, その EU 域内の個人の個人データの取扱いは, 第 3 条第 2 項のもとで GDPR の範囲に含ま れる.

In carrying out the processing on instructions from, and on behalf of, the US company the cloud provider/processor is carrying out a processing activity 'relating to' the targeting of individuals in the EU by its controller. This processing activity by the processor on behalf of its controller falls within the scope of the GDPR under Art 3(2).

米国の会社からの指示に基づき及びそれに代わって行う取扱いの場合,クラウドプロ バイダー/処理者は、その管理者による EU 域内の個人のターゲティングに「関連する」取扱活動を行っている.管理者に代わって処理者が行うこの取扱活動は、第3条第2項のもとで GDPR の範囲に含まれる.

Example 21: A Turkish company offers cultural package travels in the Middle East with tour guides speaking English, French and Spanish. The package travels are notably advertised and offered through a website available in the three languages, allowing for online booking and payment in Euros and GBP. For

marketing and commercial prospection purposes, the company instructs a data processor, a call center, established in Tunisia to contact former customers in Ireland, France, Belgium and Spain in order to get feedback on their previous travels and inform them about new offers and destinations. The controller is 'targeting' by offering its services to individuals in the EU and its processing will fall within the scope of Art 3(2).

事例 21:トルコの会社が、英語、フランス語、スペイン語を話すツアーガイド付きの中東での文化的なパッケージ旅行を提供している。このパッケージ旅行は、この3つの言語で利用可能なWebサイトを通じて特に宣伝及び提供され、オンライン予約及びユーロと英ポンドでの支払いが可能である。マーケティング及び商業的展望の目的で、同社は、チュニジアに拠点を有するデータ処理者、コールセンターに対し、過去の旅行に関するフィードバックを得、また、新しいオファーや目的地について知らせるため、アイルランド、フランス、ベルギー及びスペインの以前の顧客に連絡するよう指示する。管理者は、EU域内の個人にそのサービスを提供することで「ターゲティング」を行っており、その取扱いは第3条第2項の範囲に含まれる。

The processing activities of the Tunisian processor, which promotes the controllers' services towards individuals in the EU, is also related to the offer of services by the controller and therefore falls within the scope of Art 3(2). Furthermore, in this specific case, the Tunisian processor actively takes part in processing activities related to carrying out the targeting criteria, by offering services on behalf of, and on instruction from, the Turkish controller.

EU 域内の個人向けの管理者のサービスを促進するチュニジアの処理者の取扱活動は、その 管理者によるサービスの提供にも関連しており、したがって第 3 条第 2 項の範囲に含まれる. さらに、この特定のケースでは、チュニジアの処理者は、トルコの管理者に代わって、また、トルコの管理者からの指示に基づきサービスを提供することにより、標的基準の実行に関連する取扱活動に積極的に関与している.

管理者が拠点基準により GDPR の域外適用を受けるとしても、処理者が域外適用を受けるとは限らないという点については、ver1.0 でほぼ解釈が確定し、これによって相当程度の問題が解消していた。つまり、EU 域内の処理者を用いてよいか、EU 域内の管理者の取扱いを受託してよいか、という日本企業の判断(GDPR の域外適用の有無を踏まえたリスク判断)ができるようになっていたのである。他方、3条2項の場合についてはこの問題が残っていた。すなわち、標的基準によって GDPR が適用される管理者の取扱いにあって、どの程度の関与があれば処理者にもGDPR が適用されるのかという論点が残っていたのである。

この点について、Ver2.1では、「処理者が行う取扱活動と、データ管理者が行うターゲティング活動との関連性」をメルクマールとし、事例を3件追加することで、適用関係の明確化を図った。適切な追加であるといえよう。

2.3.6 他の GDPR 条項及び他の法律との相互作用

The EDPB will also further assess the interplay between the application of the territorial scope of the GDPR as per Article 3 and the provisions on international data transfers as per Chapter V. Additional guidance may be issued in this regard, should this be necessary.

EDPB は、第3条に定める GDPR の地理的範囲の適用と、第5章の国際データ移転の規定との相互作用についてもさらに評価する.必要な場合には、追加のガイダンスを発出する.

Controllers or processors not established in the EU will be required to comply with their own third country national laws in relation to the processing of personal data. However, where such processing relates to the targeting of individuals in the Union as per Article 3(2) the controller will, in addition to being subject to its country's national law, be required to comply with the GDPR. This would be the case regardless of whether the processing is carried out in compliance with a legal obligation in the third country or simply as a matter of choice by the controller.

EU 域内に拠点のない管理者又は処理者は、個人データの 取扱いに関連する第三国の国内法 を遵守する必要がある. しかし、その取扱いが EU 域内の個人のターゲティングに 関連している場合、第 3 条第 2 項により、その管理者は、 自国の国内法の対象とされることに加 え、GDPR を遵守 する必要がある. これは、その取扱いが第三国の法的義務 に従って行われるか、又は単に管理者の選択の問題かにか かわらず当てはまる.

前段は、越境移転制限との関係について触れている.この点については、域外適用される場合に越境移転制限が課せられるのか、つまり、日本「から」移転することを GDPR 上制限するのか、という基本的な問題があり、標準データ保護約款 (SDPC) を用いる場合など、準拠法が日本法になるわけであるが、それで適切なのかという実務的な問題があった. Ver2.1 では留保されており、今後のガイダンスが予定されているということになる.

後段については, EU 域外では当該国法も遵守する必要があるという, 至極当然の記載であるが, 事業者の混乱に対応したものであろう.

2.4 国際公法の効力により加盟国の国内法が適用される 場合での取扱い

Though not related to the application of Article 3(3), a different situation is the one where, by virtue of international law, certain entities, bodies or organisations established in the Union benefit from privileges and immunities such as those laid down in the Vienna Convention on Diplomatic Relations of 196127, the Vienna Convention on Consular Relations of 1963 or headquarter agreements concluded between international organisations and their host countries in the Union. In this regard, the EDPB recalls that the application of the GDPR is without prejudice to the provisions of international law, such as the ones governing the privileges and immunities of non-EU diplomatic missions and consular posts, as well as international organisations. At the same time, it is important to recall that any controller or processor that falls within the scope of the GDPR for a given processing activity and that exchanges personal data with such entities, bodies and organisations have to comply with the GDPR, including where applicable its rules on transfers to third countries or international organisations.

第3条第3項の適用とは関係しないが、別の状況として、国際法により、EU 域内に拠点を有する特定の主体、団体又は組織が、1961年の外交関係に関するウィーン条約27、1963年の領事関係に関するウィーン条約又は国際機関とEU 域内のホスト国との間で締結された本部協定で定められた特権や免除の恩恵を受けるという状況がある.この点について、EDPBは、GDPRの適用が、非EU外交使節団及び領事ポスト並びに国際組織の特権及び免責を定める規定など、国際法の規定を損なうものではないことを想起する.同時に、特定の取扱活動についてGDPRの範囲に含まれ、これらの主体、団体、組織と個人データを交換する管理者又は処理者は、該当する場合には第三国又は国際機関への移転に関する規則を含め、GDPRを遵守する必要があることを想起する.

外交使節団等との情報交換は、越境移転規制の対象となることが確認されている。GDPR の規定からは論理必然であり、他方、日本法は「外国にある第三者」に対する提供を規律している関係で、日本在住の在外公館との関係では、このような問題が生じないことに注意が必要である。

2.5 EU 域内に拠点がない管理者又は処理者の代理人 2.5.1 取扱いごとの代理人の必要性

In line with the GDPR, the EDPB confirms that, when several processing activities of a controller or processor fall within the scope of Article 3(2) GDPR (and none of the exceptions of Article 27(2) GDPR apply), that controller or processor is not expected to designate several representatives for each separate

processing activity falling within the scope of article 3(2).

GDPR に沿って、EDPB は、ある管理者又は処理者のいくつかの取扱活動が GDPR 第 3 条第 2 項の範囲に含まれる場合(かつ GDPR 第 27 条第 2 項の例外が適用されない場合)、その管 理者又は処理者は、第 3 条第 2 項の範囲に含まれる個々の取扱活動ごとに複数の代理人を 指定することは期待されていないことを確認する.

域外適用される取扱活動が複数ある場合も、代理人を複数置かなければならないわけではないことが確認されている. 域外適用が処理活動ごとに判断されることを強調したことから来る誤解を防ぐ意図があろうか.

2.5.2 データ保護オフィサーとの関係

Such requirement for a sufficient degree of autonomy and independence of a data protection officer does not appear to be compatible with the function of representative in the Union, which. The representative is indeed subject to a mandate by a controller or processor and will be acting on its behalf and therefore under its direct instruction29. The representative is mandated by the controller or processor it represents, and therefore acting on its behalf in exercising its task, and such a role cannot be compatible with the carrying out of duties and tasks of the data protection officer in an independent manner.

このようなデータ保護オフィサーの十分な自律性及び独立性に関する要件は、EU 域内における代理人の機能とは、両立しないように思える. 代理人は、まさに管理者又は処理者による委任を受けその直接的な指示の下で管理者又は処理者の代わりに行為をする EU域内における代理人の機能とは、両立しないように思える. 代理人は、代理する管理者又は処理者によって委任されており、そのため、自己のタスクを実行するに当たりその代理人として行動し、その機能は、独立した方法でデータ保護オフィサーの義務及び職務を実行することと両立できない.

代理人は、委任を受けた個人データの取扱いについて取扱いの範囲で活動するのであって、独立した立場であるデータ保護オフィサー(DPO)の立場とは両立しないことが明言されている.

2.5.3 指定義務の免除

In line with positions taken previously by the Article 29 Working Party, the EPDB considers that a processing activity can only be considered as "occasional" if it is not carried out regularly, and occurs outside the regular course of business or activity of the controller or processor.

EPDB は,第 29 条作業部会が過去において採った立場に沿って,取扱活動は,それが 定期的に実行されない場合にのみ「偶発的」と見なされ,管理者又は処理者の通常の事

業又は活動外で発生すると考える.

Finally, the EDPB highlights that the exemption from the designation obligation as per Article 27 refers to processing "unlikely to result in a risk to the rights and freedoms of natural persons", thus not limiting the exemption to processing unlikely to result in a high risk to the rights and freedoms of data subjects. In line with Recital 75, when assessing the risk to the rights and freedom of data subjects, considerations should be given to both the likelihood and severity of the risk.

最後に、EDPB は、第 27 条に定める指定義務の免除は、「自然人の権利及び自由に対するリスクをもたらす可能性が低い」取扱いを指し、したがって、データ主体の権利 及び自由に高いリスクをもたらす可能性が低い取扱いへの免除を制限しないことを強調する。前文第 75 項に沿って、データ主体の権利及び自由に対するリスクを評価する 場合、リスクの蓋然性及び深刻度の双方が考慮されるべきである。

「偶発的(一時的)」及ぶ,「リスクが生じる可能性が低い」についての解釈を明らかにしている.

2.5.4 「公的機関又は公的組織」

The qualification as a "public authority or body" for an entity established outside the Union will need to be assessed by supervisory authorities in concreto and on a case by case basis. The EDPB notes that, given the nature of their tasks and missions, cases where a public authority or body in a third country would be offering goods or services to data subject in the Union, or would monitor their behaviour taking place within the Union, are likely to be limited.

EU 域外に拠点のある主体の「公的機関又は組織」としての資格は、具体的に、ケース バイケースで監督機関によって評価される必要がある. EDPB は、職務及び使命の性 質をふまえると、第三国の公的機関又は組織が EU 域内のデータ主体に商品又はサービ スを提供する場合、又は EU 域内で行われる行動を監視する場合は、限定される可能性があることを留意する.

「公的機関又は公的組織」については、一般的に、EU 加盟国等のそれをのみ指すと思われたが、ここでは、第三 国の公的機関又は公的組織が含まれる可能性を示唆してい る. 適切な解釈であると思われるが、GDPR の他の個所と の文言解釈の整合性は問われる.

3. 外国法への影響

GDPR 後の外国法においては、GDPR の域外適用(地理的適用範囲)規定をそのままコピーしたような条項も見ら

れる. 例えば、タイ法における地理的適用範囲の条項は、非公式英語版を見る限り、ほぼ GDPR と同様である2. この条項の解釈が、ガイドライン Ver.2.1 に沿うものであるかは不明であるが、一定の解釈上の影響は与えるであろう.

4. 結語

以上のとおり、主たる改訂箇所を考察してきたが、日本の事業者においても疑問であった点を解消するような工夫が見られる. 他方で、越境移転制限との関係は、新たなガイダンスに委ねられるところとなったため、公表を待つこととなろう.

参考文献

[1] 板倉陽一郎「特集 「欧州一般データ保護規則(GDPR)」が日本 企業に与える影響と人事の対応: 個人情報保護法との相違点と、 GDPR 違反とならないために必要な体制づくり」労政時報 3958 号 (2018 年) pp.81-95.

[2] Personal Data Protection Act, B.E. 2562 (2019)(Unofficial Translation),

https://thainetizen.org/wp-content/uploads/2019/11/thailand-personal-data-protection-act-2019-en.pdf (Accessed at 22nd Jan. 2020)